

■ 環境教育基本方針に基づく実施事業の実績一覧

※2月末現在

| 取組主体 | 事業名(実施年度) | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 累計(H19～28) | |
|---------------------|--------------------|--|--|--|--|--|---|--|--|--|--|--|---------------------------|
| 教育委員会 | 教員研修 | 「教育課題研修コース(環境教育Ⅰ～Ⅱ)」 「初任者研修(環境教育の基礎)」 | 「教育課題研修コース(環境教育Ⅰ～Ⅲ)」 「初任者研修(環境教育の基礎)」 | 「教育課題研修コース(環境教育Ⅰ～Ⅲ)」 「初任者研修(環境教育の基礎)」 | 「教育課題研修コース(環境教育Ⅰ～Ⅲ)」 「初任者研修(環境教育の基礎)」 | 「教育課題研修コース(環境教育Ⅰ～Ⅲ)」 「初任者研修(環境教育の基礎)」 | 「教育課題研修コース(環境教育Ⅰ～Ⅲ)」 「初任者研修(環境教育の基礎)」 | 「教育課題研修コース(環境教育Ⅰ～Ⅲ)」 「初任者研修(環境教育の基礎)」 | 「教育課題研修コース(環境教育Ⅰ～Ⅲ)」 「初任者研修(環境教育の基礎)」 | 「教育課題研修コース(環境教育Ⅰ～Ⅲ)」 「初任者研修(環境教育の基礎)」 | 「教育課題研修コース(環境教育Ⅰ～Ⅲ)」 「初任者研修(環境教育の基礎)」 | 「教育課題研修コース(環境教育Ⅰ～Ⅲ)」 「初任者研修(環境教育の基礎)」 | |
| | 環境に関する学習活動・研究実践校事業 | 太陽光パネル、地域・外部人材、さっぽろっこ農業体験 | - | - | - | - | 5校 | 7校 | 7校 | 10校 | 10校 | 9校 | 48校 |
| | トピックとなる取組 | | | 札幌市学校教育の重点として「環境」を位置づけ | 市立全園・学校でエコスクール宣言の取組開始 | | | | | | | | |
| 札幌市(及び教育委員会) | 環境副教材 H13～ | 市立小学校の新1・3・5年生に配布 | 市立小学校の新1・3・5年生に配布 | 市立小学校の新1・3・5年生に配布 | 市立小学校の新1・3・5年生に配布 | 市立小学校の新1・3・5年生に配布 | 市立小学校の新1・3・5年生に配布 | 市立小学校の新1・3・5年生に配布 | 市立小学校の新1・3・5年生に配布 | 市立小学校の新1・3・5年生に配布 | 市立小学校の新1・3・5年生に配布 | 市立小学校の新1・3・5年生に配布 | |
| | かんきょうみらいカップ H16～ | 参加者数 | フットサル:241人 | フットサル:319人 | フットサル:398人 | フットサル:635人 卓球:740人 | フットサル:456人 卓球:800人 | フットサル:472人 卓球:800人 | フットサル:375人 卓球:800人 | フットサル:188人 卓球:850人 | フットサル:236人 卓球:850人 | フットサル:268人 卓球:1,090人 | フットサル:3,588人 卓球:5,930人 |
| | 環境教育へのクリック募金 H18～ | 寄贈校数 | 28校 | 31校 | 28校 | 29校 | 26校 | 49校 | 36校 | 51校 | 44校 | 47校 | 369校 |
| | | 協力企業数 | 10社 | 9社 | 8社 | 7社 | 8社 | 8社 | 9社 | 9社 | 9社 | 8社 | 85社 |
| | 校外学習用バス貸出 H19～ | 利用校数 | 43校 | 54校 | 69校 | 88校 | 70校 | 61校 | 46校 | 34校 | 50校 | 59校 | 574校 |
| | | バス利用台数 | 94台 | 115台 | 152台 | 184台 | 153台 | 133台 | 94台 | 76台 | 99台 | 125台 | 1,225台 |
| | エコライフレポート H19～ | 取組率(夏) | (小中13校で試行実施) | 17.6% | 81.9% | 85.0% | 87.6% | 90.5% | 92.7% | 93.2% | 94.4% | 94.2% | - |
| | | 取組人数(夏) | | 24,635人 | 114,286人 | 116,837人 | 119,363人 | 122,683人 | 125,023人 | 124,834人 | 126,663人 | 126,454人 | 1,000,778人 |
| | | 取組率(冬) | 16.2% | 64.2% | 86.6% | 89.9% | 92.1% | 91.8% | 92.2% | 91.7% | 94.0% | 94.5% | - |
| | | 取組人数(冬) | 22,963人 | 95,185人 | 120,780人 | 124,106人 | 126,269人 | 124,391人 | 124,416人 | 123,335人 | 126,217人 | 126,874人 | 1,114,536人 |
| さっぽろこども環境コンテスト H20～ | - | 小学校8校 中学校4校 | 小学校4校 中学校5校 その他1校 | 小学校5校 中学校6校 その他1団体 | 小学校5校 中学校5校 | 小学校5校 中学校5校 | 小学校5校 中学校5校 その他1団体 | 小学校3校 中学校3校 その他3団体 | 小学校4校 中学校7校 その他2団体 | 小学校4校 中学校6校 その他2団体 | 小学校44校 中学校46校 その他10団体 | | |
| かんきょう元気新聞H21～27 | - | - | 小学校5・6年生(年3回) | 小学校4～6年生(年4回) | 対象を小中学生に拡大(年2回) | 小中学生(夏冬2回) | 小中学生(夏冬2回) | 小中学生(夏冬2回) | 小中学生(夏冬2回) | 小中学生(冬1回最終号) | | | |
| エネルギーに関する環境教育H23～ | | | | | 百合が原小学校にエネルギー等使用量の表示設備 | 平岸中学校にエネルギー等使用量の表示設備 | 南郷小学校にエネルギー等使用量の表示設備 エネルギーの使い方を学習できるシDVD教材作成 | H25年度作成のDVD教材をホームページ化、学校や家庭での学習機会拡大 | | | | | |
| トピックとなる取組 | 札幌市環境プログラムの作成 | | | 学校における環境教育の実践事例集 | | | | 環境プラザハウススタジオ展示更新 | | | | | |
| 環境プラザ | 環境保全アドバイザー H5～ | 派遣件数 | 38件 | 39件 | 26件 | 37件 | 33件 | 37件 | 45件 | 39件 | 44件 | 45件 | 383件 |
| | | 利用者数 | 2,604人 | 2,780人 | 2,024人 | 2,087人 | 2,498人 | 2,332人 | 2,748人 | 2,136人 | 3,043人 | 2,926人 | 25,178人 |
| | 環境教育リーダー H15～ | 派遣件数 | 24件 | 19件 | 44件 | 55件 | 74件 | 101件 | 142件 | 128件 | 105件 | 93件 | 785件 |
| | | 利用者数 | 1,523人 | 1,220人 | 2,311人 | 2,415人 | 3,717人 | 5,620人 | 8,475人 | 6,303人 | 5,121人 | 3,558人 | 40,263人 |
| | 環境プラザ HP H15～ | 施設利用者数 | 44,067人 | 47,092人 | 45,515人 | 48,679人 | 56,331人 | 78,430人 | 57,869人 | 66,868人 | 68,068人 | 63,709人 | 576,628人 |
| 環境プラザ HP H15～ | アクセス件数 | 79,658件 | 83,266件 | 152,416件 | 153,785件 | 116,185件 | 128,034件 | 164,365件 | 167,899件 | 233,566件 | 126,209件 | 1,405,383件 | |
| トピックとなる取組 | | | アウトリーチ事業「環境プラザがやってきた」開始 | 環境プラザにエコクラブ設立 | 北海道教育大札幌校フィールドワーク受入れ | ・土曜日ワークショップエコ+1(毎週土曜日) ・見学ツアーに各種アクティビティ導入 ・見学ツアーパンフ作成、配布 | | プラザ主催教員向け研修、小学校出前授業開始 | 学生サポーター制度開始、企業とのマッチングパンフ作成、配布 | インタープリターズキャンプin札幌実施 | | | |

札幌市環境教育基本方針に基づく事業の実施状況及び自己評価

(平成19年度～平成28年度)

人材の育成

【札幌市教育センターにおける研修】

札幌市教育センターでは、教員研修のプログラムに環境教育の講座を取り入れている。初任者向けの「環境教育の基礎」のほか、スキルアップのための「環境教育の実際を学ぶ」、「環境教育に役立つ施設の活用」、「環境教育をめぐる様々な視点」など様々な講座を開設しており、現在では、理科、社会科、家庭科、総合学習などの科目に環境教育を取り入れた授業が一般に行われるようになっている。

【環境に関する学習活動・研究実践校事業】

平成21年度から、「札幌らしい特色ある学校教育」の3つのテーマの一つとして、「環境」が位置づけられたことから、札幌らしい特色ある学校教育推進事業の一環として「環境に関する学習活動・研究実践校」を指定し研究活動を行っている。平成21年度から、「さっぽろっこ農業体験研究実践校」の取組が始まり、平成23年度からは、「太陽光パネル活用等に関する学習活動研究実践校」、「地域・外部人材を活用した自然環境に関する学習活動研究実践校」が加わり、3分野についての研究活動を継続して行っている。

【環境保全アドバイザー・環境教育リーダー制度】

平成5年度から「環境保全アドバイザー」、平成15年度から「環境教育リーダー」の派遣事業を行っている。両制度を通じて、アドバイザー、リーダーの育成はもとより、派遣を受け入れる主催者にとっても、環境教育を実践で学べる機会の提供となっている。

環境保全アドバイザー派遣事業では、平成19～28年度で延べ約25,000人、環境教育リーダー派遣事業では、同期間で延べ約40,000人が参加している。

【その他の環境プラザ実施事業】

平成22年度から、環境プラザで「こどもエコクラブ」を設立して活動を行っている。環境プラザは、札幌市の子どもエコクラブ全体の事務局としての機能を果たすとともに、エコクラブを卒業した子どもたちにジュニアエコリーダーとなってもらい、卒業後のエコ活動の機会を設け、後輩のこどもエコクラブのメンバーへの指導も行っている。

平成26年度からは、環境プラザの主催により教員のスキルアップのための研修を行っている。

平成27年度からは、環境プラザ学生サポーター制度を設け、環境プラザの事業に運営側として参加する機会を設けている。

「人材の育成」に係る評価、課題

「札幌らしい特色ある学校教育」の3つのテーマ「雪」「環境」「読書」の一つに「環境」が位置づけられたことにより、学校教育における環境教育が大きく推進するとともに環境局と教育委員会との協働事業などの連携も進んでおり、一定の効果をあげている。

環境保全アドバイザー・環境教育リーダー制度についても、研修や実践を通じて、一定の効果をあげていると認められる。

環境教育リーダー制度については、毎年利用するリピーター団体が多いことから、利用団体の幅を広げる工夫を検討する必要があるとともに、主催者側で自らプログラムを実践できるような方向へ誘導するなどの取組も必要となっている。

環境プラザの事業については、子どもエコクラブの取組の充実に加えて、教員に対する環境教育の研修、学生サポーター制度など、これまでの活動の幅を広げる取組が進んでおり、一定の効果をあげていると認められる。

札幌市環境教育基本方針に基づく事業の実施状況及び自己評価

(平成19年度～平成28年度)

情報の共有・活用

【環境プラザホームページによる情報共有】

環境プラザでは、環境関連の事業実施の情報を提供しているほか、平成21年度からはブログの開設、平成27年度からはさらにフェイスブックも開設し、最新情報を積極的に発信するなどの取組を行っており、ホームページへのアクセス件数は、概ね、増加傾向にある。

【環境元気新聞の発行】

平成21～27年度は、その時々で環境分野でのトピックとなる事柄を盛り込んだ「かんきょう元気新聞」を発行し、小中学校に掲示した。
※ その後、トピックとなる取組については、「エコライフレポート」等で周知を図ることとし、当該事業は平成27年度で終了

【環境教育関連施設連携事業の実施】

環境関連施設の連携強化を図るため、平成21～22年度に環境関連施設の担当者によるプロジェクト会議を開催し、校外学習用バスのモデルコース、札幌市内の環境関連12施設を巡る「おでかけポケットブック」の作成を行っている。同ポケットブックは、その後、隔年で更新を図っている。

【学校における環境教育の実践事例集及びエコスクール宣言の取組】

平成22年度に、学校における環境活動や学校と地域の協働取組などの活動を掲載した「学校における環境教育の実践事例集」を作成した。また、平成22年度からは、全ての市立の園・学校で「エコスクール宣言」に取り組み、活動事例を教育委員会のホームページで毎年度掲載している。

【「環境中間支援会議・北海道」の取組】

平成20年度に「環境中間支援ネットワーク推進会議準備会」として発足し、ワークショップや勉強会などを重ねながら、北海道内の環境活動にどのような支援ができるか検討し、平成22年度から、「環境中間支援会議・北海道」と名称変更して、環境情報を一元的に閲覧できるホームページ「環境☆ナビ北海道」を開設し、活動を継続している。

これまでの取組については、ホームページによるイベント情報や助成金などの公募情報、キャンペーン情報の配信のほか、北海道内の環境保全活動に携わった先駆者の言葉を介して北海道の環境や人の変化をまとめた『もうひとつの北海道環境白書』（平成24年度と平成25年度に1冊ずつ）の発行、環境教育施設等の指定管理者制度に関する連続勉強会、札幌市環境プラザの展示改修にかかるワークショップへの協力などを行った。

「情報の共有・活用」に係る評価、課題

都心部に立地し、札幌の環境活動の拠点施設である環境プラザをさらに有効活用して、環境関連施設への誘導を促す取組などが求められる。

「学校における環境教育の実践事例集」に加えて、「エコスクール宣言」の取組として、毎年度、ホームページに掲載し、各学校の取組の参考となっている。

「環境中間支援会議・北海道」の取組については、ホームページの開設や環境プラザ展示改修にかかる検討など、活動の充実が見られる。

札幌市環境教育基本方針に基づく事業の実施状況及び自己評価

(平成19年度～平成28年度)

プログラムの作成

【環境副教材・教師用手引書】

平成13年度から、これまで、各部局で作成・配布されていた環境関連の副教材(ごみ、川、雪、下水道、水道)を統一化し、小学校1・2年生用, 3・4年生用, 5・6年生用の3種類及び各教師用手引書を作成して、市内全小学生への配布を開始しており、毎年度、改訂を加えながら内容を充実させ、現在に至っている。また、学校で教員が授業を進めるにあたって用いる「教育課程編成の手引き」にも反映されている。

【札幌市環境教育プログラムの作成】

平成19年度に環境教育を効果的に行うための手引きとして策定し、「小学校編」「中学・高校編」「家庭・地域・職場編」の3分類で作成しており、学校向けのプログラムを中心に紹介しており、環境副教材と同様に「教育課程編成の手引き」にも反映されている。

【環境プラザにおける学習プログラム】

環境プラザの展示物を利用した見学者向け環境教育プログラムを作成しているほか、出前授業等での体験型学習プログラムを充実させており、環境広場や児童会館でのお祭り、土曜にワークショップなど各種のイベントで当該プログラムを実施している。

また、平成26年度に更新したハウススタジオを利用した「省エネ・節電・ミニ講座」などハウススタジオの家電を利用した省エネ・節電の解説プログラムを実施している。

「プログラムの作成」に係る評価、課題

平成19年度に策定した「札幌市環境教育プログラム」は、「小学校」向けのプログラムについては、環境教育副教材を毎年度更新し充実させることによって継承され、「教育課程編成の手引き」にも反映されるなど活用されているが、「中学校・高校」、「家庭・地域・職場」向けのプログラムについて、どのように活用、更新していくかを今後、検討していく必要がある。

環境プラザにおける学習プログラムについては、各種イベントなどで出前講座を展開するなど、充実が図られている。

札幌市環境教育基本方針に基づく事業の実施状況及び自己評価

(平成19年度～平成28年度)

機会づくり・場づくり

【かんきょうみらいカップ】

平成16年度から、スポーツ・レクリエーションなどの活動を通じて、環境保全活動に興味を持って楽しく取り組んでもらうことを目的に多くの企業の協賛・協力のもとで開催しており、参加した子どもたちに「環境体験・活動カード」を提出してもらい、優秀な取組についての表彰を行うなどしている。当初はフットサルの大会を対象にしていたが、平成22年度からは、卓球大会も加えて、スポーツと環境活動に取り組む子どもたちの輪を拡げている。

【環境教育へのクリック募金事業】

平成18年度から、環境保全活動に取り組む企業から寄附を募り、希望する学校に環境教育教材を寄贈する制度であり、平成19～28年度で延べ369校に教材を寄贈している。

【校外学習用バス貸出事業】

平成19年度から、市立の小中学校を対象に環境関連施設の見学用バスの無料貸し出しを開始している。平成22年度からは、学校で利用しやすいようにモデルコースの作成を行ったほか、平成28年度からは、見学施設の対象を民間施設も含めた札幌近郊までをカバーする「環境とエネルギーについて学ぶ」モデルコースを追加した。

【エコライフレポート】

平成19年度から、子どもたちが家庭のエコリーダーとして、環境配慮行動の声掛け役となり、継続してエコ行動を意識して実践してもらうことを目的として、夏休みと冬休みに市立全小中学生にレポートを配布して取組結果を提出してもらうもので、これまでに延べ200万人以上の子どもたちに取り組んでもらい、近年の取組率も90%を越え、札幌の小中学生にとっては、なじみのある定着した取組となっている。

【さっぽろこども環境コンテスト】

平成20年度から、小中学生が環境のために取り組んでいる活動の発表を行うコンテストを開催している。これまでの活動で、周囲の子どもたち、さらには地域の大人たちにも活動の輪が広がっており、毎回出場し、環境活動が盛んな学校として活動が後輩に受け継がれ定着している学校がある一方、新規に参加する学校も出てくるなど、活動の輪が着実に広がっている。

【札幌市環境プラザの利用】

札幌市環境プラザは、平成15年度に開設しており、市内中心部に位置し、様々な展示物を通じて、環境について学ぶことができるとともに、環境活動団体の利用に供する環境研修室の設置のほか、環境に関する様々な事業を展開しており、施設利用者数は年々増加傾向にある。

「機会づくり・場づくり」に係る評価、課題

環境教育基本方針策定以前からの事業も含め、年々、取組を充実させており、エコライフレポートを始め、それぞれの取組が定着しており、着実に成果が上がっている。

今後は、各事業の効果についても検討しながら、取組事業の重点化や再構築なども必要となってくると考える。